

2008年度学校自己評価システムシート 早稲田大学本庄高等学院

目指す学校像	早稲田大学建学の精神に基づき、中学校における教育の基礎の上に高等普通教育を施し一般的教養を高め、健全な批判力を養い、国家および社会の形成者として有意な人材を養成し、さらに進んで深く専門の学芸を研究するに必要な資質を育成する。(本学院学則第一条)
--------	--

重点目標	<p>1 生徒の学力向上や学部進学意欲涵養のため、教員一人ひとりの授業の改善、進路指導プログラムを一層推進する。</p> <p>2 男女共学、男女共生に配慮しつつ、授業改善、学級経営、学校の安全管理、入試広報等をさらに充実する。</p> <p>3 本校が取り組む人権教育、学校行事、国内外交流、部活動等を通じて、心身ともに優れ、国際社会で活躍できる生徒の育成を目指す。</p> <p>4 生徒のより良い成長に資するため保護者との連携、地域との連携を図る。</p>
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (4 月 3 0 日 現 在)			
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒の学力向上や学部進学意欲涵養のため、教員一人ひとりの授業の改善、進路指導プログラムを一層推進する。	学力向上のための施策を積極的に推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による「授業評価」を年度末に行い、それを基に授業改善を行なう。 ・教員一人ひとりが質の高い授業を目指し研究活動を充実させる。 ・進路指導委員会、学年、教務が連携し進路指導を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業評価」の完全実施を目指す。 ・「授業評価」の取りまとめを迅速に行い、それを基に教員一人ひとりの授業改善に努める。 ・著書、論文等の執筆を積極的に行う・また、研修会や学会等への参加を推進する。 ・進学準備のプログラムの実施状況を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業評価」とは、「教員は熱心でしたか?」「理解しやすい授業でしたか?」「この分野に関する興味・関心は増しましたか?」の三テーマを設定し、5段階で評価する(Webによる評価)もので全教員の平均点は、4.2、3.7、3.6であった。無回答率は凡そ0.7%であり、ほぼ完全実施できたものとする。 ・事務職員の努力もあり、1週間ほどで集約できた。結果を基に各人が次年度の授業を改善を行うことになった。 ・男女共学化実施二年目、新校舎建設準備等の事務的な作業が増大したとは言え、やや物足りないものとなった。 ・学部説明会、サマーセミナー(学部教員の出張講義)、ウインターセミナー(OBによるキャリア教育)、進学準備セミナーを実施したが、前年度に比べ、充実して行うことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法については定着したと考えている。評価点を高める努力をする。 ・授業改善は個々に任されることであるが、それを学校全体でどのようにレベルアップしていくか課題である。 ・事務作業量の軽減を実現する。 ・研究活動の充実を訴える。 ・授業の質的向上を目指し、授業公開、研究授業を実施する方法で検討する。 ・新たに人間科学部オンデマンド授業が展開されるので、その効果を検証する。 ・他の課外講義を充実させる。
2	男女共学、男女共生に配慮しつつ、学級経営、学校の安全管理、入試広報等をさらに充実する。	生徒指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の基盤であるLHRや個人面談を充実させる。 ・校内カウンセラー制度をさらに充実させ生徒支援を強める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR前に事前の打合せを行い、指導内容を徹底する。 ・クラス担任と生徒との面談回数を増やす。 ・カウンセラーの出勤日を増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的であったと思われる。 ・個人差はあるが、前年に比して回数は増えた。 ・前年に比して、隔週の土曜日にも出勤するようになった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主体はクラス担任と生徒であるが、それを補完する意味からも保護者との面談を増やす必要があるか。 ・カウンセラーの常駐を求め、それを実現することによ

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

		<p>指導基準、指導方法を見直し、より良い生徒指導を実現する。 「安全・安心」の学校を目指し、様々な施策を推進する。</p> <p>入試広報を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導基準となる「生徒心得」を見直す。 ・日直者による校内巡回を徹底する。 ・不審者侵入防止の施策を定め実施する。 ・「本庄キャンパス安全衛生委員会」を機能的に運営する。 ・入試広報を充実させ、意欲ある優れた生徒の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒心得」を見直すことによって生徒の生活を向上させる。 ・校内巡回が的確に行われているか検証する。 ・「不審者侵入時の緊急マニュアル」を定める。 ・委員会の開催と安全点検を的確に行う。また、改善箇所がある場合には、それを迅速に改善すべく大学に依頼する。 ・学校説明会、塾等の入試説明会、学院見学をさらに充実させ、受験者数の増加と入学者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒心得」の全面的見直しを行った結果、生徒や保護者にとって非常にわかりやすいものとなった。 ・概ね良好に行われているが、失念してしまう教員もある。 ・緊急時の対応フローチャートと教職員の役割分担等が示され、対応方法が確立された。 ・委員会及び安全点検は的確に行われたが、改善まで繋がらなかった。 ・昨年に比べ微増であった。その中で女子の受験者は100余増え、相応の効果はあった。 	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>って、養護教諭の仕事量を軽減することができる。 ・指導を徹底する。</p> <p>校内巡回を徹底して行い、生徒に下校時間を守らせる。</p> <p>ガードマンによる校内巡回と防犯カメラの増設が求められる。 速やかな改善を求める。</p> <p>女子が入学しにくい状況を克服したい。</p>	
3	<p>人権教育、学校行事、国内外交流、部活動等を通じて心身ともに優れ、国際社会で活躍できる生徒の育成を目指す。</p> <p>学校行事を精選実施する。</p> <p>国内外交流をさらに推進する。</p>	<p>人権教育を推進する。</p> <p>学校行事を精選実施する。</p> <p>国内外交流をさらに推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講話、人権に関わる研修会に参加する。 ・教職員主導型の行事、生徒主導型の行事等を区別し、その関わり方を検証する。 ・国内外交流を通じて参加した生徒が成長することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権講話を行うとともにその有効性を検証する。 ・人権に関わる研修会に積極的に参加する。 ・生徒主導型の学年行事を積極的に推進する。 ・交流行事に積極的に参加しているか、また、交流内容は充実したものか確認する。 	<p>「インターネット等による人権侵害」というテーマで行う。身近なテーマで有効であった。</p> <p>・人権教育委員長は非常に精力的に参加したが、それを他の教員に及ぼすことができなかった。</p> <p>・文化祭（稲稜祭）、学院大音楽会はともに成功裡に実施することができた。</p> <p>・来日中の台湾の台中一中、シンガポールのNJCとの交流を行う。さらに修学旅行先で、韓国の安養外国語高等学校、台中一中と交流を持ち成果を上げる。前者の交流への参加者に偏りがあった。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学内研修会等を行い、人権教育に関わる研修会を充実する。 ・芸術鑑賞会と学院大音楽会の位置づけを明確にする。 ・国内外の交流が増えるにつれ教員の負担が増えた。さらに代講の数が増し、授業確保の面で問題が生じつつある。交流について再考が必要か。また、参加者に偏りがあるのも課題である。 	
4	<p>生徒のより良い成長に資するため保護者との連携、地域との連携を図る。そして「開かれた学校づくり」を目指す。</p>	<p>保護者との連携をさらに強める。</p> <p>地域との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報発信を質量ともに増やす。 ・保護者の意見を幅広く聞く。 ・地域の連携を図るとともに地域の力を教育に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年二回の保護者会が有効に機能しているか、検証する。 ・その他の情報発信を強めるための方策を考える。 ・本庄市、また本庄市の7の高校と連携し、新たな取組を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会への参加率は85～90%であり、保護者会は非常に有効であると思われる。 ・今年度新たに「教務通信」を月1回ほどメールにて発信している。 ・広報紙「緑風」「杜」を定期的に刊行している。 ・「保護者の会」からも「杜Iクブリス」、「卒業DVD」等で情報の発信がある。 ・「保護者アンケート」を年二回行う。 ・「セブンスイールドミット」を初めて開催することができた。 	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報等の問題から、生徒たちの情報をどのように発信していくか今後検討する。 ・回答はするものの、改善要望にはなかなか答えられないのが現状である。 ・地域との連携は始まったばかりであり、今後の充実が期待される。 	